

# 東アジアにおける植物—花粉媒介者相互作用：総説

船本大智

東アジアにおける植物—花粉媒介者相互作用の研究分野はここ数十年で急速な発展を遂げている。東アジアは非常に多様な動植物相と複雑な環境をもつことから、花生態学における重要な知見をもたらすかもしれない。本総説では、東アジアにおける植物—花粉媒介者相互作用をまとめた。特に、この地域における花粉媒介者とそれと相互作用する植物の多様性に焦点を当てた。1956年から2019年にかけて出版された東アジアにおける研究の代表的な文献を扱った。

東アジアにおいて、マルハナバチは北アメリカとヨーロッパと同様に花粉媒介者として重要な働きをもつ。在来ミツバチも花粉媒介者として重要な働きを持つかもしれない。しかし、東アジアの自然生態系におけるミツバチの花粉媒介者としての役割はよくわかっていない。鳥類やスズメガ類による花粉媒介は、東アジアでは北アメリカより一般的ではないかもしれない。蜜食に特殊化した脊椎動物は東アジア南部の一部の地域にのみ分布し、それ以外の地域では機会的に蜜を摂食する脊椎動物が花粉媒介に重要な役割をもつかもしれない。

気候変動、外来生物、生息地の破壊などは植物—花粉媒介者相互作用に負の影響を与えている可能性がある。しかし、そうした影響に関する研究事例は少ない。

多くのタイプの環境や分類群において研究が進んでいないため、東アジアにおける植物—花粉媒介者相互作用に関する知見はいまだに限られている。

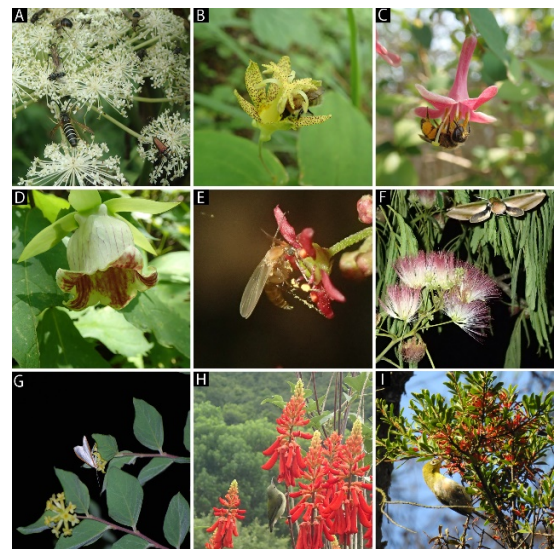


図. 東アジアの花と花粉媒介者の例

(A) シシウドはさまざまな分類群の昆虫を集める。(B) タマガワホトトギスに訪花するミヤママルハナバチ。(C)ウグイスカグラに訪花するコガタホオナガヒメハナバチ。(D)スズメバチ媒花の一つであるツルニンジン。(E) クロクモソウに訪花するキノコバエの一種。(F)ネムノキに訪花するスズメガの一種。(G)ガンピに訪花するマエアカスカシノメイガ。(H)南アフリカ原産のデイゴの1種に訪花するエンビタイヨウチョウ。(I)マツグミに訪花するメジロ。(H)以外は日本の自然環境で撮影。(H)は中国の植物園で撮影。(A)–(H)は船本大智が撮影、(I)は Sugiura (2018)より

